

感染症情報 7月17日～23日

府下小児科200療機関(堺市19)から

①手足口病	2378例(堺市 153例)
②感染性胃腸炎	778例(堺市 39例)
③ヘルパンギーナ	386例(堺市 24例)
④溶連菌感染症	370例(堺市 20例)
⑤RSウイルス感染症	190例(堺市 3例)

府下インフルエンザ定点307医療機関(堺市29)から

インフルエンザ	22例(堺市 0例)
---------	------------

が報告された。

感染症報告数は前週から18.1%減の4,524件であった。報告の第1位は手足口病で以下、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、溶連菌感染症、RSウイルス感染症の順であった。

1位の手足口病は府下で前週比17%減、堺市でも前週比21%減であった。定点当たりの報告数は前週14.4→今回11.9に下がった。2位の感染性胃腸炎は府下で前週比27%減、堺市で9%減であった。ヘルパンギーナが府下で前週比20%減、堺市で41%減であった。溶連菌感染症は府下では前週から23%減、堺市では39%減であった。RSウイルス感染症は府下で前週比35%増、堺市では前週2例→今回3例であった。

インフルエンザは府下では前週21例→今回22例で横ばいであった。堺市では前週2例→今回再び0になった。

麻疹や風疹の報告はなかった。